

人民元切り上げと製造業に対する影響

■ 人民元の為替レートは適正か

上海万博の開幕。好景気に沸く中国の発展スピードには驚異的なものがある。戦後の日本高度成長時代の経済成長と比べても5倍から10倍のスピードではないだろうか。この成長スピードは沿岸部から内陸部にも及んでおり、あらゆる都市で古い建物が取り壊されて、高層ビルの建設ラッシュが続く。地下鉄網の発展、都市をつなぐ道路網や高速鉄道の建設。急激な社会変化は貧富の差の拡大等のひずみを生み出している。富裕層の中国人ツアーが挙って日本にやってくるブランド品や最新の電化製品を買い漁っていく。過去1年間で100万人の中国人観光客が日本を訪れたそうだ。

そんな中国に関して、世界の金融市場で最大の関心事となっているのが人民元の切り上げに関する話題である。国際通貨であるドルと比較して安値に設定されてきた人民元であるが、もはや適正なレートではないという声が出ているからだ。現在の為替レートでは1ドルが約6.8元であるが、アメリカや欧州の政府が考える適正レートは1ドル＝約4.5元と言われている。

もちろん中国政府も人民元切り上げの各種対策を考えている。その方策が諸外国との貿易決済手段であるドルを人民元に変更するという案。人民元で取引できれば為替レートの影響を受けない。中国は人民元を国際通貨化するために周辺諸国に働きかけている。たとえば、香港や東南アジア、モンゴル、ロシアとの貿易では段階的に決済手段をドルから人民元に変えていく。韓国やマレーシア、インドネシアなどの銀行間では人民元と現地通貨の交換取引を締結する。そういった対策を考えているようである。

■ 明暗分かれる製造業に対する影響

中国に海外工場を持つ企業は多い。そうした企業にとって人民元の切り上げはどんな影響を及ぼすのだら

うか。プラス要素としては、輸入品の価格が下落することにより調達コスト削減効果が生まれることだ。中国で生産活動を行うに当たっては、原材料や部品を中国国外から調達することが有利である。また、中国の国内市場の活性化も予想される。輸入品の販売価格が下がるからである。消費者の購買意欲を刺激することでビジネスチャンスは拡大するだろう。反対にマイナス要素は、輸出品の価格競争力が低下することだ。

産業的には、プラスの影響を受けるのは鉄鋼、非鉄金属や化学などの中国市場をねらったの進出した素材系企業や輸送・建設機械。逆にマイナス影響を受けるのは、電気や機械などの組立加工型の産業や木材、紙パルプである。先進国市場に対する生産拠点であり輸出比率が高いからである。

とはいえ、進出企業の現地調達率は52.4%、現地販売比率も56.6%に達しており中国市場を想定にした取引が過半数となってきてはいる。各産業とも中国市場を視野に入れた展開を加速させているようだ。

かたや、バブル景気の加速、人件費の上昇、電力不足、政治動向等、中国におけるリスクの多様化も懸念事項ではある。リスク分散として東南アジアに対する経営投資を行う動きも増加するのではないだろうか。

